日常生活での活用を促す

本場面におけるポイント

●オリエンテーションを実施する

日常生活の中で「心のノート」が自主的に活用されるためには,その意義,内容,使い方,保管方法,提出の有無などについて十分な理解が得られることが大切である。

●継続的な活用が促されるように工夫する

「心のノート」が継続的に活用されるためには,関心をもつテーマについて一定期間取り組んだり,振り返りの場を設定して自己の成長や変容を確かめたりする機会をつくることが大切である。

子どもに対するオリエンテーションの事例（第1学年）―裁量の時間を活用して―

活動の概要「「心のノート」を開いてみよう」（まとまった時間がとれないときは,分割して実施する）

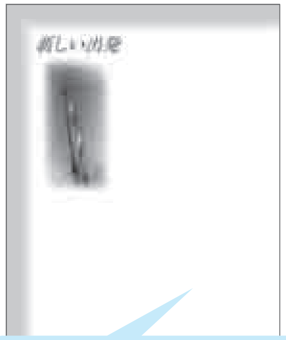
主な活動例	指導援助の方法及び留意点	期待する子どもの姿
・担任が準備したアルバムを見たり,思い出に耳を傾けたりする。	・担任自身のアルバムを示しながら,いくつかの写真について思い出やそのときの気持ちを語る。	・成長や思い出を記録しておくことの意義に気付き,関心を高める。
・「心のノート」のファイルが配布され，しばらくの間，自由に中を見る。 ・班ごとに，自分が一番気に入ったページとその理由を紹介し合った後，学級全体でも交流する。 ・どんなときに活用したいか各自でインデックスを付ける。	・心のアルバム,心のポートフォリオなどの言葉を使い,関心を高める。 ・「こんなことがあったときに」「こんな気持ちになったときに」「こんな時期に」の観点で分けて板書する。 ・インデックス,付箋紙等を準備しておく。	・期待をもって「心のノート」のファイルを受け取り，興味のあるページを読む。 ・活用のきっかけをイメージする。 ・日常生活の中で，読んだり，書き込んだりできそうなページを意識する。
・自分たちの「心のノート」に関する考えや要望を出し合いながら,約束事を確認する。 ・思いを込めて「心のノート」に名前を付ける。	《約束事の例》 ・常にかばんに入れておく。 ・自由に記入してよい。 ・授業で一斉に使うこともある。 ・見られたくないページがあればその気持ちを尊重する。等	・使い方,保管の仕方,提出などについて理解するとともに,活用への意欲を高める。

子どもの意見・感想から

・このごろ両親とけんかになり，頭にくることが多い。そんなとき「家族だからこそ」を読むと少しは素直になれそうな気がする。

中学校用P.112～113

中学校用P.142



・卒業式が近付いたら，友達に「新しい出発」のページに書いてもらいたい。

日常生活での自主的・継続的な活用を促すために

各自がテーマを決めて一定期間取り組んだ事例

「心のノート」についてのオリエンテーションを実施したところ,子どもそれぞれに,今,関心をもっている内容項目があることがわかった。そこで,その発展として一ヶ月程度それぞれがテーマを絞って取材や書き込みを行うことを試みた。

本実践を通して,子どもは「心のノート」を身近な存在として意識するとともに,日常の体験を道徳的価値に照らして見つめることができるようになってきた。「心のノート」は,気付いたこと,感じたことを自由に書き込んでいくことが基本であるが，ときには自分が悩んでいることや疑問に思っていることに焦点を当てて，一定期間取り組んでみるのも効果的である。

次に示すのは,発展途上国の現状と日本の役割に関心をもっていた生徒の記述である。

●異文化に接した経験,そして考えたこと　中学校用P.129

300円あれば貧しい国の何人もの子どもたちに予防接種ができるというコマーシャルを見た。日本人は，今のようなぜいたくな生活をしていていいのだろうか。　○年□月△日

テレビで，モンゴルの砂漠に命がけで木を植えようとしている遠山さんが紹介された。すごいと思った。はじめは協力してくれなかった地元の人たちが手伝うようになり，「日本人に感謝している。」と言ったのがとてもうれしかった。　△年○月□日

自分の成長や変容を振り返るときに活用した「振り返りシート」の例

先のような取組だけでなく,一定期間ごとに「心のノート」を読み直し,自分の成長や変容を確認することが大切であると考え,次のような「振り返りシート」を作成した。

「心のノート」を使って最近の自分を振り返ってみよう

1　最近読み直したり,書き加えたりしたページはどこですか。

2　最近,あなたの心が動いた出来事は何ですか。

3　最近,ものの見方や考え方が変わったことは何ですか。

4　最近，家族や友達との話の中で話題となったページはどこですか。

5　最近の自分を一言で言うと,次のうちどれに近いですか。
- ・輝いている
- ・疑問をもっている
- ・悩んでいる
- ・迷っている
- ・努力している
- ・考え直している
- ・感謝している
- ・その他

名前	記入日

長期休業で活用する

自分自身と家庭・地域を結ぶ「まち発見」「自分発見」

本場面におけるポイント

- **地域への興味や関心**
  地域を多様な視点で見て発見するときに様々なヒントや視点を与えてくれる。
- **自分らしさの発見**
  ゆとりの中で自分の好きなことや自分らしさなどを探すときに生かすことができる。
- **課題発見の手掛かり**
  長期休業中にやってみたいことや挑んでみたいことを見つける手掛かりとなる。

長期休業前に，自分の生活を振り返ってみよう

長期休業は，生活のリズムを整えることや学習の計画を立てることなど，丁寧な指導が必要である。その際，「心のノート」のページを活用することが効果的である。

3年のある学級では，夏季休業の事前指導で，P.12～13「ふみ出そう　ひとり立ちへのたしかな歩み」を配布し，1学期にできるようになったことを話し合い，成長を認め合った。そして，夏期休業の課題とあわせてP.15「自分がもっとかがやくために」のページを配布し，気が抜けてしまいがちな長期休業中の目標を考えさせた。子どもたちは，次のようなことを書き込んで持ち帰った。

○冷たいものを食べすぎない。	○宿題は毎日コツコツする。	○早ね早おきをする。
○きまりを守って仲よく遊ぶ。	○家の仕事を1つ選んでやってみる。	

※1・2年用（P.92～93），3・4年用（P.96～97），5・6年用（P.112～113）を用いて休み中のルールやマナーについて考えさせることも有効である。

「心のノート」を手掛かりに自分の課題を見つけて取り組んでみよう

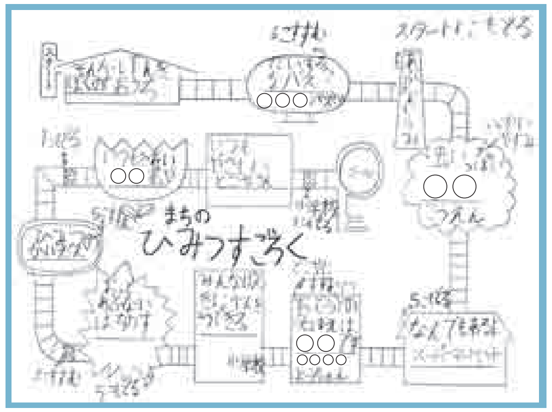
例1　「ふるさとすごろくづくり」（2年）

長期休業に入る前に，1・2年用P.88～89「あなたがそだつまち」を一緒に読んで，自分の地域に関心を向ける機会をつくることも考えたい。

例えば，「休みの間に，地域の様々なところに出掛けて，いいなと思う場所を見つけてみよう。カードなどにメモしておくと面白いよ。」などと伝える。P.90～91の新聞作りのページについても，「楽しみながら作ってみよう。」と配布することも考えられる。そのとき，「心のノート」の中に紹介されている施設，環境，人物などが参考になることを助言する。

ある子どもは，このページを使って「まちのひみつしんぶん」を作り，さらに左図のような「まちのひみつすごろく」を作ってきた。そして，休み明けに，学級で，そのすごろくを実際に活用して楽しんでいた。

このような活用は，中学年の場合，3・4年用P.88～91「わたしたちの心を育ててくれるふるさと」を生かして進めることもできる。



楽しんで作った「まちのひみつすごろく」

例2　「不思議を調べよう～ぼく・わたしの課題研究」（6年）

5・6年用P.28～31「好奇心が出発点」のページは，子どもの「不思議だ」「便利だ」などと感じた体験を思い起こさせ，知的好奇心を呼び覚ます。

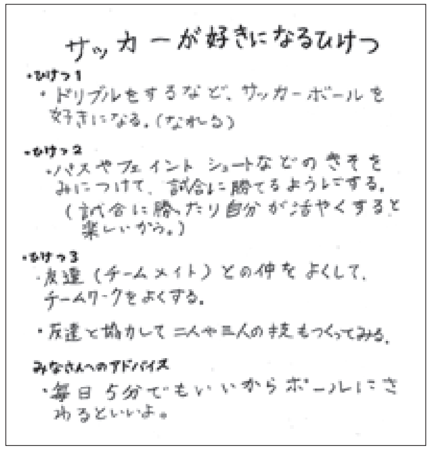
そこで，長期休業の前などに，P.29の「考えよう　くふうしよう」のメッセージを教室で一緒に読んで，「同じようなことを感じたことがありますか。」と問い掛ける。すると，子どもは疑問や便利さを感じた体験などを話し始める。さらにP.31を配布して「思いついたことを一つ書いてみよう。」と投げ掛ける。そのことによって，調べてみたいこと，挑んでみたいことなどが引き出される。

なかには，湯川秀樹やマリー＝キュリーなどの歴史上の人物そのものを調べてみたいと思う子どももいる。そのような興味や関心も大切にする。

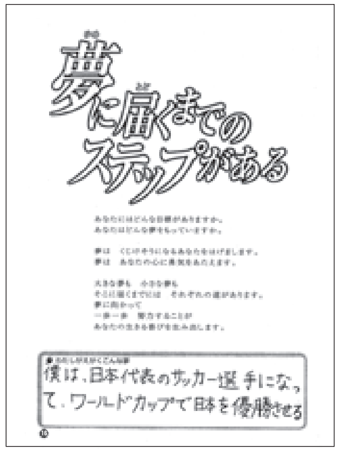
自分らしさ発見のためのファイル作りをしよう

長期休業中は，子どもにとって，様々な体験を重ねながら「自分探し」をする好機となる。そこで，長期休業前に，例えば，5・6年用P.16～19「夢に届くまでのステップがある」，P.32～35「自分を見つけみがきをかけよう」などを用いて，休みの間の「自分探し」への思いを膨らませる。

5年のある学級では，休業前に，子どもたちに，「自分のいいところや，得意なことをもっと見つけてみよう。」と投げ掛けて，次のような方法を伝えた。



「サッカーが好きになるひけつ」



「わたしがえがくこんな夢」

【「自分探し」の方法（例）】

ア　P.32～34を用いて，今の自分のよいところや変えたいところについて考える。
イ　P.35に長期休業中に取り組むことを書き込み，休業中の課題とともに持ち帰る。
（その際，家族に「（　　）に聞いてみた」の欄に書き込んでもらう）
ウ　そのページを先頭にして，休業中に取り組んだことを「自分の○○ファイル」としてまとめる。
（製作物や大型の絵などは写真にしてはさみ込むとよいことを知らせる）

なかには，先頭のページを家の机に貼って意識化し，自分らしいと思うことなどを次々とファイリングする子どもがいた。

長期休業が明けてから，「心のノート」やファイルの中で，特に伝えたいことについて小グループで伝え合う活動を行った。このような活動は，子どもの生活への自信を深め，友達のよさを発見することにもつながる。

ファイルを用いて自分の得意なことなどを紹介